

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">日本語表現</p>	<p>対象学科・学年 薬学部薬学1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">岡崎 昌宏</p>
<p>授業テーマ 的確な表現を学ぶ</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>自分の伝えたいことを、どのような相手にも正確に理解されるように表現することは容易ではありません。的確な表現を選び、頭にあることを過不足なく文章の形にして書く、あるいは話す必要があります。この講義では、書く表現を中心に、自分の考えを的確に表現するための基礎的な知識や技術を確認し、実際に表現の練習を行います。そして社会の様々な場面で活用することのできる表現技術の習得を目指します。</p>		
<p>評価方法</p> <p>出席および毎回の課題の提出状況により評価します。また課題に取り組む姿勢（各回の講義をよく聞いた上で課題に取り組んでいるか、前回までの自己の問題点を修正できているか、など）も考慮します。</p>		
<p>テキスト</p> <p>講義中に配布するプリントを用います。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>必要に応じて講義中に随時紹介します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>1回の講義は、基本的には以下の順にすすめていきます。(1) まず、前回の講義中に作成した受講者の文章のうち、優れたものや興味深いもの、注目すべき箇所などをいくつか紹介し、的確な表現をするために必要なことを確認します。(2) 次に、毎回テーマを設定し、相手に間違いなく、また過不足なく伝わる表現のために必要な技術(表現方法・語彙・文法・文の構成など)を、例文や例題を挙げながら解説します。(3) 最後に、当日のテーマに沿った課題に基づき、受講者は限られた時間で文章を書き、提出します。毎回、実際に文章を書く経験を積み重ねることによって、表現する技術の向上を目指します。</p> <p>また随時、様々な作家や評論家などの文章を紹介し、優れた表現に接する機会を設け、表現への意識を高めます。</p> <p>各回のテーマはおおむね以下のような内容を予定しています(日本語文章能力検定(文検)の内容も考慮しています)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概説—的確な表現とは 2. 表現したい事実や出来事を列挙し、選択する 3. 事実や出来事に対し意見を述べる 4. 説明不足の文章をなくす(5W1Hを意識する) 5. 長い文を短くする 6. 推敲を十分に行う—余分な重複説明・表現を避ける、意見文で使うべきではない言葉や表現を避ける 7. 語彙力を高める—漢字、類義語、同音異義語、慣用句などを正しく使う 8. 自分の意見に対し、説得力のある理由を述べる 9. 自分とは異なる意見を想定し、それに反対する 10. 文章の構成を考える 11. 説得力を高める工夫をする 12. 敬語を知る 13. 敬語を正しく使う—お礼の手紙を書く 14. 敬語を正しく使う—案内など公的な手紙を書く 15. まとめ—優れた文章に接し、的確な表現を考える 		